

6月10日（日）

リバークルーズ（河川を活用したまちづくり）

竹中工務店USA本社の新藤陽一社長の案内により、シカゴ川を巡るクルーズ船上から河川を活用したまちづくりについて視察を行った。

シカゴ川沿岸にはさまざまなデザインのビルが建てられており、ブラウン・ステイールビルなどの飾りのないモダン建築のビルをはじめ、意匠を凝らしたポストモダン建築が調和してシカゴの街並をつくっている。

古い建物は壁で全体を支えていたが、鉄骨を使用するようになるとガラスが使用できるようになり、大きな窓が設けられた。最近の建物は2重ガラスになっており、一見して建物として古く見えても、ガラスだけ変えているところもある。

トランプタワーは九つのブロックを上層階になるほど一つずつ減らしていき、真ん中のブロックだけ残す構造となっている。エレベーターの台数も階数に応じて減らしていけるメリットがある。

アメリカは州によって建築規制が異なり、ビル外壁の看板も厳しく規制されている。工事における検査の数も多い。ただしシカゴは地震がないので他の地域よりも耐震面での規制は緩くなっている。

川に架かる動く橋は世界で一番シカゴに多い。

親水空間については、川に沿って鉄道の線路が敷設されており、構造的に造営するのは難しいが、その状況下でもリバーウォークや階段状のリバーシアターを整備することで観光名所としてシカゴに人を引きつけている。



シカゴ川から見るトランプタワー



船上で説明を聴取する様子

シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会との意見交換

シカゴ姉妹都市プログラム事務室において、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会との意見交換が行われた。

吉村市長から大阪市の高校生をシカゴに派遣するプログラムを新設したいので協力をお願いしたい旨の挨拶があった。次に角谷議長から今後とも連携を密にしていきたいとの挨拶の後、参加者一人一人の自己紹介が行われた。

柏木経済戦略局長から、高校生の派遣については姉妹都市協会に負担をなるべくかけないように、派遣事業の枠組みを大阪市の方で考えた上、事業をより良いものとするため姉妹都市協会からの意見も取り入れていきたい旨の説明があった。これに対し、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会の野毛洋子氏からは、来年3月11日は「絆」のイベントで忙しいので派遣時期については考慮してほしい旨、また松原都氏より滋賀県の立命館守山高校から毎年高校生を受け入れている実績があり、プログラムの中身がまだ決まっていないのであれば、同高校に照会するのも一つの手であるとのアドバイスをいただいた。

また、野毛洋子氏から、姉妹都市協会で実施している事業としては、東日本大震災の復興をサポートするため、写真展などを開催している「絆」プロジェクトや、スピーチコンテスト及びグローバルアンバサダーサミットの紹介があった。特にグローバルアンバサダーサミットは、オバマ元大統領の夫人であるミシェル・オバマ氏が始めたプログラムであり、200名の中から審査により選ばれた14歳～16歳の女性

15名が会場のイリノイ大学でリーダーシップ等について学ぶことができるものであるが、大阪からは申請がなかったのが是非申請してほしい。10月22日に日本経済新聞社の主催で大阪国際会議場において女性セミナーが開催される予定であるが、アンドレア・ゾップ ワールド・ビジネス・シカゴ代表がビジネスリーダーを連れていくのでよろしく願います。翌日には、大学生3、4回生で海外に興味がある人や、新社会人でキャリアアップを考えている女性を対象に、シカゴの弁護士や会計士などの専門職から1年間のメンターシップ事業も考えている旨発言があった。

意見交換会の場には、社会福祉交流メンバーも参加しており、キャサリン・ポーランド氏は大阪でケアの仕事をする機会があったがその経験が現在のシカゴでの仕事に活かされている旨、また、ジーン・フジウ氏は医学、精神学、ソーシャルワーカーのプロを大阪に派遣しているが、福祉サービスを通じて両都市の絆を深めていきたい、そのための行政の支援も欲しい旨発言された。

最後に、今後とも大阪市と姉妹都市協会が連携を深め、両都市のさらなる親交拡充を図っていくことを確認し、これをもって全ての大阪・シカゴ姉妹都市45周年事業を終えた。



シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会との意見交換の様子

おわりに

今回、姉妹都市提携45周年を記念してシカゴ市を訪問したが、行く先々で温かいおもてなしを受け、様々な方々とお会いできたことは非常に意義深いものだった。

議会表敬ではマーガレット・ラウニーノ、トム・タニー両議員にご対応いただき、シカゴ市議会の概要を学ぶと同時に、市民の議会参画のあり方などについて改めて考えさせられた。両市の交流では、名嘉委員長をはじめ、橋渡しをいただいているシカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会の皆様の熱意に感銘を受けた。また、シカゴの街並みを見て、まちづくりにおける建築物のデザイン性や、全体としての調和の大切さも痛感した次第である。

今回の45周年記念事業が大阪市・シカゴ市のさらなる関係強化に役立つことを切に願っている。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行等でお世話になったシカゴと大阪両市の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。